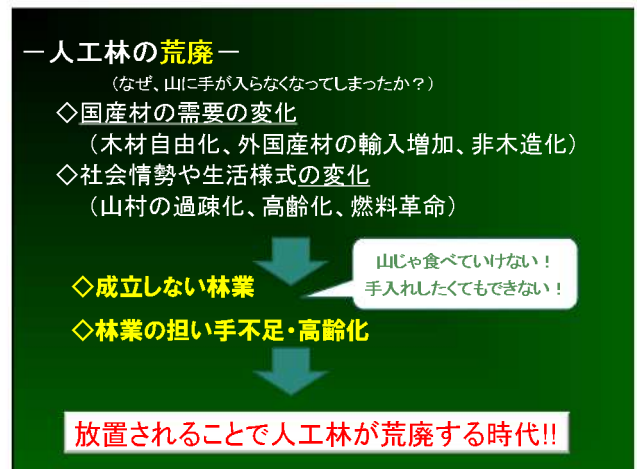
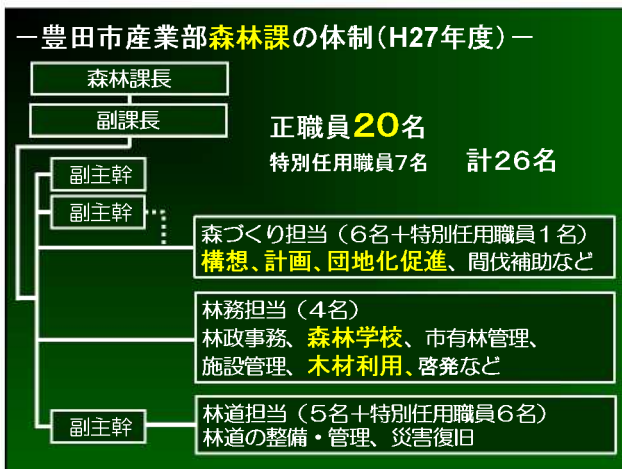
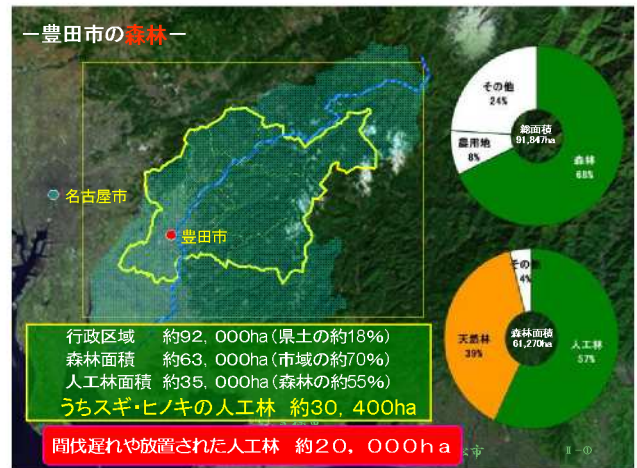


【別途資料1】



【別途資料 1】

平成 27 年 7 月 29 日
第 1 回とよた森づくり委員会資料
豊 田 市 産 業 部 森 林 課



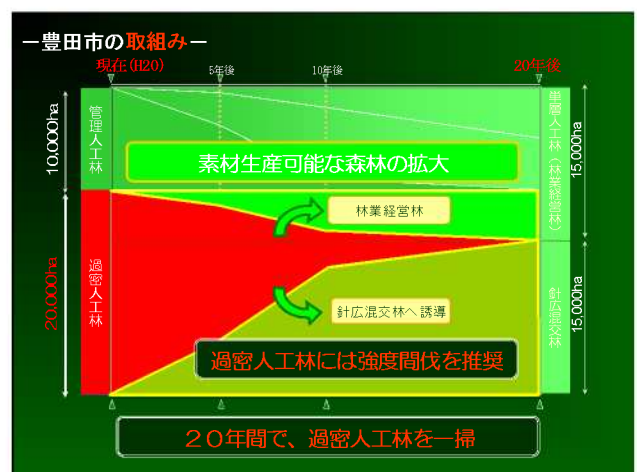
ー豊田市の取組みー

- 豊田市森づくり条例 平成19年4月1日施行
基本理念、市、森林所有者等の責務・役割などを明確したもの
- 100年の森づくり構想 平成19年3月決定
100年先を見据えた森づくりの方向性および20年間の基本的施策の考え方

豊田市の森づくりの目的
豊かな環境・資源・文化をはぐくむ森林の保全及び創造並びに次世代への継承

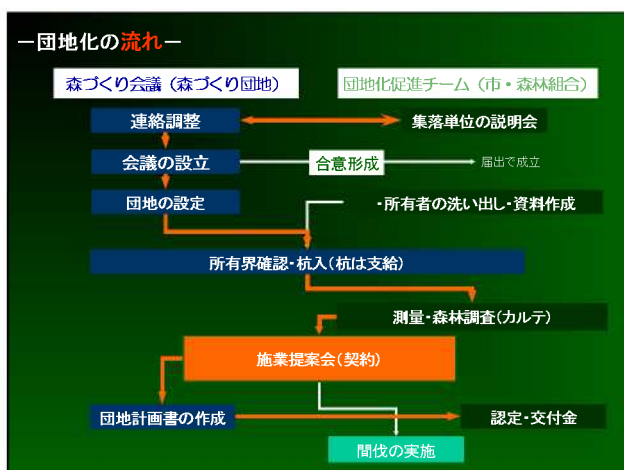
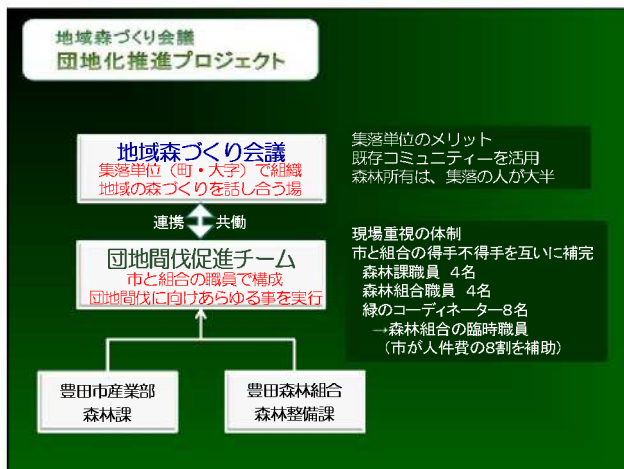
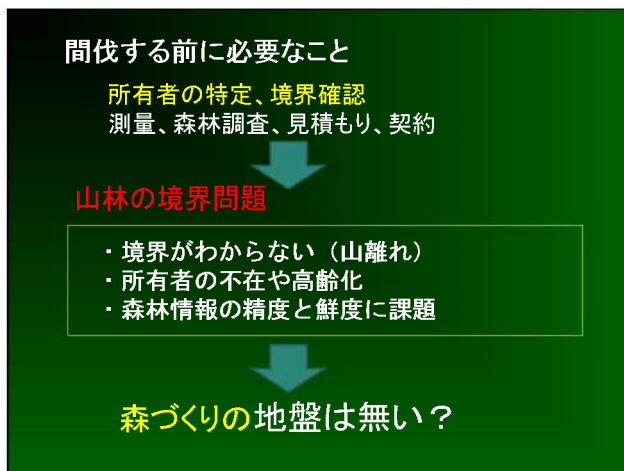
- 森づくり基本計画 平成19年10月決定

公益的機能回復重視！
豊田市の森林の最重要課題
人工林の間伐の促進

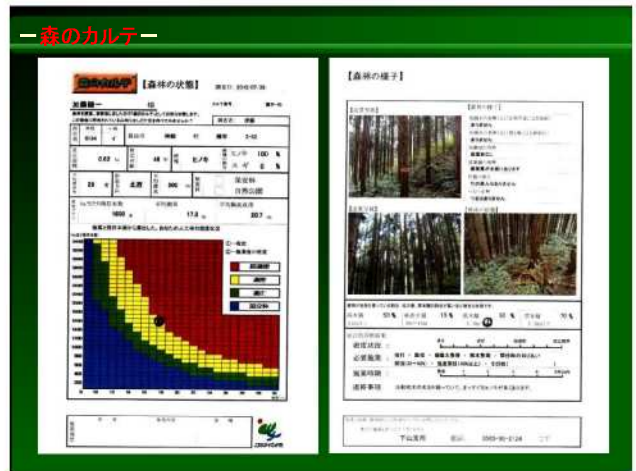


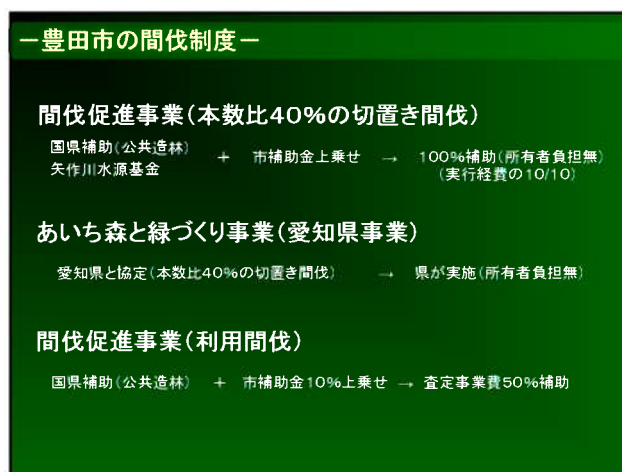
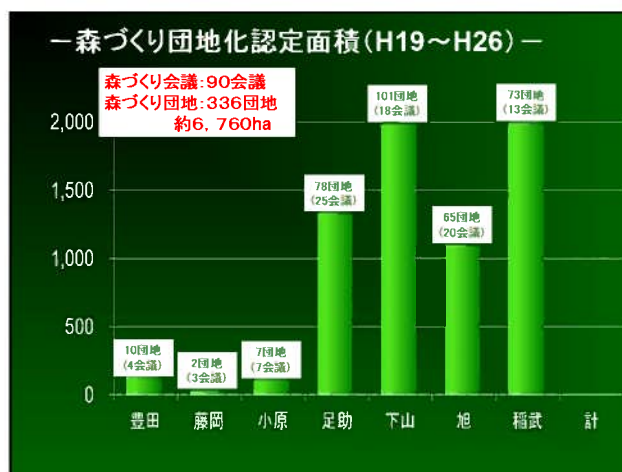
【別途資料 1】

平成 27 年 7 月 29 日
第 1 回とよた森づくり委員会資料
豊田市産業部 森林課



【別途資料 1】





【別途資料 1】

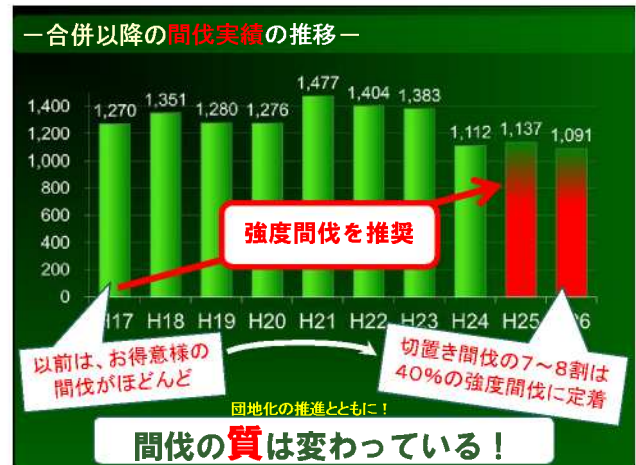
平成 27 年 7 月 29 日
第 1 回とよた森づくり委員会資料
豊田市産業部森林課

－実行体制－

○森林組合と市は**パートナー**！ ⇒互いを認め・補完し合う
○森づくり(団地化)は**市の事業**！ ⇒市の持つ情報の活用
○**現場を重視**した体制

●**団地間伐促進チーム(27年度)**
森林課職員 4名
森林組合職員 4名
緑のコーディネーター8名
→森林組合の臨時職員(市が人件費の8割を補助)
計16名(地区担当のみ)

四人一組 ⇒ 年間200～400haを団地化
(市職員1名+森林組合職員1名+コーディネーター2名)



－まとめ－【相互のメリット】

市民 荒廃した人工林の整備を拡大
木材利用の無い切置き間伐でも、団地化で効率化が必須
健全な森林を拡大していくことが行政の責務
市民ニーズ・・・公益的機能＞木材生産(税金の投入・手厚い補助金の意味)

組合 団地化で計画管理
事業地の確保・計画的管理
団地化は、未来の仕事もつくっている⇒事業体の安定・拡大
森林の公益性回復とともに**木材資源**としても**成長**⇒収穫の効率UP

所有者 地域 境界保全と財産価値の向上への期待
山の境界(自分の山)が分かる。⇒次世代へ
間伐して山を良くする。⇒所有者責任、地域環境
集約化施策による木材収入の期待

－課題－【今後の協議事項】

- ・構想(森林区分)と事業・補助制度との不整合
- ・間伐面積の伸び悩み⇒構想・計画の目標設定
- ・林業の担い手対策
- ・NEXT森づくり会議
- ・木材資源活用⇒製材工場
- ・主伐の対応

森林区分・ゾーニング

などなど

↓

構想のリニューアルで議論・検討し策定
平成27年度～平成29年度(実質2年間)

